

# 公立病院経営強化プラン策定に関する 住民説明懇談会の開催結果について

令和5年7月8日、11日に市内4会場で住民説明懇談会を開催しました。

住民説明懇談会は、民生部から民生部長等、病院事業から病院事業副管理者、経営管理部長等が出席し、公立病院経営強化プランの策定内容について1時間ほど説明した後、参加した市民からの質疑に回答する形式で行われました。

## 1. 開催概要

### (1) 趣旨

公立病院経営強化プラン策定の参考とするため、市民に検討状況の説明を行い意見を求めるもの。

### (2) 対象

市民

### (3) 説明員

①民生部：民生部長、健康推進課長、夜間急患センター事務長、健康推進課員

②病院事業：病院事業副管理者、経営管理部長、経営企画課長、経営企画課員

### (4) 説明事項

①持続可能な医療提供体制の確保について

②地域医療連携の拠点となる施設の整備について

## 2. 日時・会場

市民病院の本院及び分院の設置されている地域を選定

(1) 古川地域 令和5年7月8日(土)14時00分

市役所本庁舎3階 大会議室

(2) 鹿島台地域 令和5年7月8日(土)10時00分

鎌田記念ホール会議室

(3) 岩出山地域 令和5年7月11日(火)18時00分

岩出山公民館2階 研修室

(4) 鳴子温泉地域 令和5年7月11日(火)14時00分

鳴子公民館ホール

### 3. 周知方法

市 民：広報おおさき7月号及び総合支所だよりへ掲載  
大崎市ウェブサイトへ掲載  
行政区長：説明地域の区長あてに案内文書の送付

### 4. 参加者数

- (1) 古川地域 33名(市民 22 名, 職員 11 名)
- (2) 鹿島台地域 26名(市民 15 名, 職員 11 名)
- (3) 鳴子温泉地域 23名(市民 9 名, 職員 14 名)
- (4) 岩出山地域 18名(市民 5 名, 職員 13 名)

### 5. 住民懇談説明会でのご質問・ご意見等について

#### 【古川地域】

ご質問・ご意見等	回答
大崎市民病院本院の主治医からの紹介状を受けて、岩出山分院等の違う地域で治療をしなければならぬことになるのか。	大崎市民病院本院で手術を終えて容態が安定した患者は、リハビリテーションを重点的に行う他の地域の病院等に転院し治療をしていただくこととなります。患者・家族の意向を聞きながら、市内の民間病院等とも連携してまいります。
プランの策定にあたっては、専門用語を使わないように留意してほしい。	誰が見ても理解できるような分かりやすい表現を用いるよう留意いたします。
施設整備の時期が令和8年度となっており令和6年度から始まる働き方改革の時期とずれているが。	総務省のガイドラインに沿ったスケジュールであり、施設整備の時期にあたっては、今考えられる最短が令和8年度となっています。整備が完了するまでの間どのようにして医療体制を維持していくかが課題であり、今後関係機関と連携し対応してまいります。
プランの実施時期はいつからになるのか。	令和6年度から令和9年度までとなっています。プランを策定し、夜間急患センター機能を持った地域医療連携拠点施設を建設し、市民病院の敷地に集約することで病院事業債などの国からの特別な財政措置が期待できま

	<p>す。総務省のガイドラインに沿った今回のタイミングで、施設整備等の検討を進めたいと思います。</p>
<p>「大崎市民病院本院」と「大崎市民病院」の標記が混在しているので修正していただきたい。</p>	<p>正式名称は「大崎市民病院」ですが、分院と区別する際に「本院」という言葉の使い方をしています。プランの策定にあたっては留意してまいります。</p>
<p>昔と比較すると、常勤医師数はだいぶ多くなった印象があるが、今後の医師確保の見通しはどうか。大崎市民病院への医師の派遣について東北大学病院との連携はとれているか。東北大学病院と連携し大崎市民病院本院の魅力を発信すれば、大学病院に頼らなくても人材を集めることができるのではないか。</p>	<p>大崎市民病院は東北大学病院の連携病院となっており、研修医や専門医を取得するための医師の研修プログラムを実施しています。大崎市民病院で研修をした医師は、研修後の病院でも高い評価を得ており、東北大学病院とは良い関係が構築されています。相互の信頼関係のもと今後も安定した医師確保に努めてまいります。</p>
<p>公立病院の経営強化について、費用削減をイメージしがちだが、より収益を稼ぐことも必要である。高度医療機器の活用などあらゆる機能をフルに活用するというのも大切である。手術支援ロボットの稼働率については、どの診療科に何台配置されているのか。手術に対応できる医師は何名いるのか。</p>	<p>経営強化については、医師が増えれば人件費もかかりますが、今後いかに効率よく診療を行うかが課題となります。これからはチーム医療が重要であり、医師一人ではなく、看護師や医療技術スタッフを適切に配置していかなければならないと認識しています。</p> <p>手術支援ロボットは週4例（消化器外科で週2例、泌尿器科で週1例、呼吸器外科で週1例）実施しています。今後さらに診療科を拡大する予定です。</p> <p>各科に1名ずつ資格を有した執刀医がおり、今後も研修を終えた医師を執刀医として配置をする予定です。</p>

<p>大崎市民病院の経営強化をどのようにしていくのか。このような状況を定期的に、懇談会の中で伝えていってほしい。</p>	<p>役割を担い、統合できるものは統合するという考え方も必要ですが、今回のプランでは、病院の統合ではなく大崎地域の公立病院が連携し役割を分担しながら、大崎地域全体で医療体制を維持していくことが重要なポイントと考えています。大崎市でいうと分院がなくなることは大変影響が大きいので、急性期は大崎市民病院の本院で診療を行い、回復期は各分院で診療を行うというように、役割を分担しながら必要な機能を残して行こうとする考えです。大崎地域1市4町が連携協定を結ぶにあたり、今回大崎市では住民説明懇談会を実施していますが、大崎地域各町でも住民への周知を実施します。</p>
<p>地域医療連携拠点施設の規模はどれくらいか。大崎市民病院本院内の敷地に建てる場合、駐車場のどのあたりに建設することになるのか。</p>	<p>大崎市民病院本院の敷地内の東側（パレットおおさき側）に、救命救急センターに接続する形での建設を検討しています。</p>
<p>大崎市民病院本院の駐車場は普段から混んでいるが、地域医療連携拠点施設建設後の駐車場が不足するのではないかと。</p>	<p>駐車場は、40台程度減少する見込みで、パレットおおさきを運営している大崎地域広域行政事務組合とも協議中です。利用者に迷惑が掛からないように対応したいと考えています。</p>
<p>地域医療連携拠点施設の規模はどれくらいになるのか。古川千手寺町にある夜間急患センターの跡地はどうするのか。</p>	<p>試算であるが1㎡辺りの建設単価は50万円を超えるものと見込んでいます。古川千手寺町にある夜間急患センターの跡地利用については、一つの案としては健康管理センターの拡充を検討しています。</p>
<p>人生の終期には誰でも医療機関の世話にならなければならない。そういう意味で住民に信頼される医療機関である必要がある。住民に対していろいろな発信ができる医療機関であってほしいと思う。（アンケートより）</p>	<p>要望として承ります。</p>
<p>資料2の取組事項（7）経営の効率化の中で「経営強化プランの計画期間中に経営収支の黒字化を目指す」とあるが、果たして可能なのか。経営状況の推移も図で示してもらいたい。資料編も作ってもらえれば大変ありがたい。（アンケートより）</p>	<p>経営強化プラン策定の際には、収支状況等について表などで示せるように準備したいと考えています。</p>

## 【鹿島台地域】

ご質問・ご意見等	回答
<p>大崎地域の公立病院が連携することは賛成であるが、各町の公立病院の経営も大崎市がみていくことになるのか。</p>	<p>個々の公立病院の経営強化については、個々の自治体・公立病院が担うこととなります。</p>
<p>大崎市民病院本院での急性期治療終了後回復期・慢性期の治療は他の自治体の病院へも転院することもあるのか。</p>	<p>回復期は、リハビリが充実した病院で治療をすることが必要です。大崎市民病院の各分院や他の地域の公立病院と連携し、転院先を決定することになりますが、まずは患者の意向をお聞きすることが重要と考えています。</p>
<p>救急患者の搬送先がなかなか見つからず、治療まで時間を要したことがあった。これからはすぐに患者を受け入れてもらうことが出来るようになるのか。このプランではそれが可能になるということか。</p>	<p>夜間の診療については基幹病院である大崎市民病院の本院へ集約することとなります。初期救急で診ることが出来るか、救命救急センターで診た方が良いかを窓口を一つにして判断し、その判断は病院で行うこととなります。まずは大崎市民病院に搬送してもらい、適切な治療を行うような診療体制を整えることで、今後は改善されると考えます。</p>
<p>日中の時間で外科的な処置が必要な患者をすぐに診てもえないことがあった。これからはすぐに患者を受け入れてもらうことが出来るようになるのか。このプランではそれが可能になるということか。</p>	<p>日中の時間帯は救急告示病院で診療することになっていますが、受入体制の確認に時間を要したものと推察されます。救命救急センターでは大崎地域広域消防本部とも連携を取りながら対応していますが、すぐに診察出来なかったのはコロナの患者対応の影響があるかもしれません。そのような事案を減らしていくためには民間病院の協力も必要であると考えられますので、医師会も含めて協議したいと考えています。</p>
<p>鹿島台地域には産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科がない。医師派遣や民間の病院と連携するなど何か良い方策はないのか。大崎市民病院本院は紹介状がないと受け入れてもらえない。高齢化が進むと交通手段もなくなる。普段の生活の中で総合的な医療が受けられるような方策を考えてほしい。例えば月2回小児科の医師が回診に来るなど。施設建設も重要であるが安心して生活できるような医療体制を整備してほしい。</p>	<p>現在、大崎地域全体で必要な医療がどこまでかを協議しています。プランの取組事項の1つとして「職員派遣の実施」を掲げており、民間医療機関も含めて地域で不足する医療や専門的な医療を提供するための医師や看護師等は基幹病院である大崎市民病院の本院から基幹病院以外の病院へ派遣することとしています。医療資源的に、全地域で実施をするということは難しいため、民間病院も含めて今後検討したいと思っております。</p>

耳鼻咽喉科が鹿島台地域含め周辺にない。高齢化が進むと高齢化が進み交通手段の確保が困難であるので、美里町南郷または鹿島台地域への耳鼻咽喉科への開設を要望する。	要望として承ります。
医療体制が広域になると、業務時間外の救急搬送の頻度が大きくなるのではないかと。基幹病院で診療できるような医療体制を整えてほしい。高齢化が進むことにより、大崎市民病院本院への交通手段もなくなる。民間の医療機関とも連携してほしい。	大崎地域内で完結出来るような医療体制を、どこまで整備することが可能であるかについて、今後も協議してまいります。

### 【鳴子温泉地域】

ご質問・ご意見等	回答
夜間急患センターが穂波へ移転する場合の、設置場所について伺う。その際駐車場はつぶれるのか。古川千手寺町にある夜間急患センターはなくなるのか。	現在古川千手寺町にある夜間急患センターは、大崎市民病院の本院の敷地内へ移転し、東側（パレットおおさき側）に、救命救急センターに接続する形での建設を検討しています。駐車場の一面に建設する計画としています。
鳴子温泉地域から大崎市民病院本院や古川地域の医療機関までの陸羽東線で通院するとなると、駅から遠くて不便である。大崎市民病院本院までのアクセスについて検討されているか伺いたい。塚目駅から大崎市民病院本院へのアクセスを整備していただくとありがたい。	交通体制をどのように整備すれば住民が利用しやすくなるのか、現在協議を始めたところです。特に大崎市民病院の本院に関しては、塚目駅とのつなぎのためにバスを出す等の考え方もあります。駅から先の目的地までのつなぎをどうするか？という部分を今後検討し、方向性をフィードバックしながら検討したいと考えています。

### 【岩出山地域】

ご質問・ご意見等	回答
鹿島台、岩出山、鳴子温泉分院の常勤医師が少ないことに大変驚いた。東北大学病院等から医師派遣がされていると思うが、常勤医師が少ない地域をどのように補っているか。	現在は、整形外科医も増え、3人体制で対応しています。大崎市民病院の本院からの医師による当直や、そのほか東北大学病院からの医師派遣によって診療にあたっています。
プランの素案を見ると病床の規模や機能の見直しなど他の地域の公立病院で、診療体制や機能が変ることになるが、各公立病院での	どの公立病院でも経営に苦慮している現状です。医師の働き方改革が始まると医師の確保がますます大変になるため、医療提供体制を

<p>受け止め方や地域住民からの意見があると思うがいかがか。</p>	<p>確保していくためには各自治体、公立病院との連携が必要となります。自治体と病院間では検討部会で協議を行い、財政シミュレーションを示しながら理解を深めてまいりました。重要なことは、住民の理解も深めていくことですので、各町においては広報へ掲載するなど早めの住民への周知を依頼しているところです。</p>
<p>公立加美病院や涌谷町国民健康保険病院が急性期から回復期、慢性期を担うことになり、かつ病床数も減るとなると、今回のプランに各町が同意していただけるか心配である。</p>	<p>1市4町とで役割を分担し、連携協約を結び議会の議決を得ることとなっています。</p>
<p>夜間の医療機能の集約も理解できるが、急性期を見てくれないのは医療の後退だと思われる。住民は急性期から慢性期まで一つの病院で診て欲しいと思うので、その説明を住民に理解してもらうことが重要だと思えるがいかがか。</p>	<p>急性期の外科的手術は本院以外の公立病院では難しくなってきます。急性期は大崎市民病院の本院で治療をし、症状安定後は地元の病院でリハビリなどの治療を行うこととなります。各地域の病院内で連携し、大崎地域全体で一貫して患者を診ていく体制を作るという共通認識を進めています。住民にいかに丁寧に説明し理解していただくかが重要と考えています。</p>
<p>医師の確保について、大崎地域において奨学金等の取り組みはあるか。</p>	<p>大崎市民病院では看護師の奨学金制度を設けており、放射線技師や検査技師等に対しては、採用後に奨学金の償還の助成をしています。医師については、自治医科大学や県から派遣され分院で地域医療に従事しています。研修医の受入れについては、東北大学病院からも高い評価を得ており、多くの研修医が大崎市民病院での研修を希望しています。東北医科薬科大学を卒業した医師が地域医療に従事する場合にも、奨学金を受け入れた病院で返済するというような助成制度もあるので、今後県とも協議し、検討してまいります。</p>
<p>宮城県の4病院再編構想で、大崎地域への影響はあるのか。</p>	<p>異なった医療圏ではありますが、医師等の医療従事者の確保という面で当医療圏にも何らかの影響があるかもしれません。また、患者にとってのメリットやデメリットがあるため、総合的に判断していかなければなりません。大崎地域全体で連携・工夫しながら医療体制を整えてまいりたいと考えています。</p>

<p>医師や看護師の確保にも大変苦勞しているとのこと。超過勤務が当たり前のような職場になっているのでしょうか。（アンケートより）</p>	<p>現在、令和6年度からの医師の時間外上限適用に向けて、タスクシェアやタスクシフトを推進しています。今後も働きやすい職場づくりに努めてまいります。</p>
<p>公立病院の現状を少しは理解できたので参加してよかった。（アンケートより）</p>	<p>この度は、ご参加いただき誠にありがとうございました。今後も、住民に大崎地域の医療提供体制についての情報提供を行っていきたいと考えています。</p>